

資料番号	1
------	---

令和6年1月18日
課名 地域政策局平和推進プロジェクト・チーム
担当者 担当課長 松崎
内線 2365

G7広島サミット レガシー・プロジェクト 「若者たちのピース・キャラバン」の実施結果について

1 要旨・目的

G7広島サミットの成果を受け、広島を中心とした日本の若者をG7各国に派遣し、現地の若者との対話イベント等を実施した。

現地での活動を通じて、若者の国際感覚やチャレンジ精神を涵養するとともに、サミットで議論された、核兵器問題をはじめとした地球規模課題の解決に向けた機運醸成を図った。

2 現状・背景

サミットを契機として、世界から広島の注目や関心は一層高まっており、この追い風を的確に捉え、「核兵器のない平和な世界」の実現に向けて、若者の参画を得つつ平和の取組を着実に推進する必要がある。

3 概要

(1) 実施主体

へいわ創造機構ひろしま（略称 HOPe）

(2) 後援

外務省

(3) コース、実施期間

イギリス・フランスコース 令和5年10月29日（日）～11月5日（日）

アメリカ・カナダコース 令和5年11月12日（日）～11月19日（日）

ドイツ・イタリアコース 令和5年11月29日（水）～12月7日（木）

※各コースの詳細日程は、別紙1のとおり。

(4) 予算（単県）

49,909千円（HOPe 負担金）

(5) 日本側参加者

高校生、大学生及び大学院生、各コース5名 計15名

※参加者名簿は、別紙2のとおり。

4 主な実施状況

(1) イギリス・フランスコース

ア 対話イベント（イギリス・ロンドン）

(ア) 場 所 オックスフォードハウス

(イ) 実施日 令和5年11月1日（水）

(ウ) 主な内容

現地大学生と、食品ロス、環境教育、平和など、地球規模課題のテーマ別に、互いの活動等について発表・意見交換を行った。「積極的にそれぞれの課題に触れる機会を提供すること」や「各課題にかかる教育の質の向上が必要」といった意見が出た。



イ 対話イベント（フランス・パリ）

(ア) 場 所 パリ国際大学都市日本館大サロン

(イ) 実施日 令和5年11月3日（水）

(ウ) 主な内容

イギリスと同様に、現地大学生と、テーマ別に、お互いの活動等について発表・意見交換を行った。「国際平和の実現のために、過去の出来事を様々な形で次世代に伝えていくこと」や「他国の歴史や平和の取組について知ることの必要性」について、それぞれの経験や考えを共有した。



ウ 視察（イギリス・ロンドン）

(ア) 場 所 帝国戦争博物館

(イ) 実施日 令和5年10月31日（火）

(ウ) 主な内容

第一次世界大戦から現代の戦争において、実際に使用された兵器をはじめ、原爆やホロコースト、戦争の市民生活に対する影響に関する展示を見て、戦争について多面的に学んだ。



(2) アメリカ・カナダコース

ア 対話イベント（アメリカ・モントレー）

(ア) 場 所 ミドルベリー国際大学院モントレー校

(イ) 実施日 令和5年11月13日（月）

(ウ) 主な内容

日本側参加者から、広島を紹介、サミットの成果や広島の平和教育についての発表を行った後、現地大学院生とパネルディスカッションを実施し、サミットの成果や「核抑止派と核軍縮派の溝を埋めるにはどうすればよいか？」など意見交換等をし、「G7各国が核軍縮に向けた文書を出したことは評価できる」「国際関係などを学び、より広い視野をもって議論を重ねていくことが大切」などの意見が出た。



イ 対話イベント（カナダ・バンクーバー）

(ア) 場 所 ブリティッシュコロンビア大学

(イ) 実施日 令和5年11月16日（木）

(ウ) 主な内容

「より平和な世界には何が必要か？」をテーマにワークショップを実施し、現地の若者と「気候を要因とする避難民」「政策決定における多様性の確保」「人種及びジェンダー差別に基づく暴力」など、より平和な世界を実現するための課題を抽出し、議論を行った。



ウ 視察（カナダ・バーナビー）

(ア) 場 所 日系文化センター・博物館

(イ) 実施日 令和5年11月17日（金）

(ウ) 主な内容

施設スタッフから、カナダにおける日系移民の歴史や現状のレクチャーを受けた。「我々の祖先がカナダにもアイデンティティを広げていることを知り、日加関係をより意識するようになった」などの感想があった。



(3) ドイツ・イタリアコース

ア 学校訪問（ドイツ・ベルリン）

(ア) 場 所 フリーデナウアー・ゲマインシャフトシュレー高校

(イ) 実施日 令和5年12月1日（金）

(ウ) 主な内容

日本側参加者から、サミットの成果、被爆の実相、自身の平和の取組について発表を行った後、グループに分かれて、平和な世界を築く方法などについて議論を行い、「平和の実現のためには過去の過ちから平和の必要性を認識することが必要」などの意見が出た。



イ 学校訪問（イタリア・ミラノ）

(ア) 場 所 ヴォルタ高校

(イ) 実施日 令和5年12月4日（月）

(ウ) 主な内容

日本側参加者からの発表の後、イタリアで問題となっている経済の南北格差や、チョルノービリ原子力発電所の事故でイタリアが受けた影響などについて議論を行った。



ウ 学校訪問（イタリア・ミラノ）

(ア) 場 所 アルベルト・アインシュタイン高校

(イ) 実施日 令和5年12月5日（火）

(ウ) 主な内容

日本側参加者からの発表の後、ロシアのウクライナ侵略やイスラエルとパレスチナの武力衝突などの現在の国際関係や難民問題について議論を行った。



エ パネル展示（ドイツ・ベルリン、イタリア・ミラノ）

(ア) 場 所 フンボルト大学（ベルリン）

ミラノ工科大学（ミラノ）

(イ) 実施日

令和5年12月1日（金）、2日（土）（フンボルト大学）

令和5年12月4日（月）、5日（火）（ミラノ工科大学）

(ウ) 主な内容

サミットや被爆の実相、核兵器問題などに関するパネル展示と、被爆の実相についてのVRコンテンツの体験を実施し、日本側参加者は、ガイドとして活動した。



オ 視察（ドイツ・ベルリン）

(ア) 場 所 テロのトポグラフィー

(イ) 実施日 令和5年12月2日（土）

(ウ) 主な内容

ナチスのゲシュタポ（秘密警察）などの本部として利用され、現在は、ナチスによる暴力支配の歴史を伝える施設を視察した。「ありのままの歴史を伝えることで、ホロコーストが行われた歴史を受け入れ、同じ歴史を二度と繰り返さないというドイツ人の意思を感じた」などの感想があった。



(4) 帰国報告会

ア 場 所 エソール広島

イ 実施日 令和6年1月5日（金）

ウ 主な内容

コース毎に、現地での活動報告と、今後、地球規模課題解

決に向けて取り組んでいきたいことを発表した。今後の取組としては、

- ・若者たちのロールモデルとして、国際交流に必要な資質を身につける手助けを行うとともに、広島県外でも、核問題以外で平和に貢献できることを体現していく。
- ・各国の文化・社会情勢を学び、多様な「平和観」を理解する。
- ・具体的な政策提言を、その規模を問わず継続して行う。

などの発表があった。



5 具体的な発信方法、広報・参加者の実績

○ 本事業の様子を、派遣前、派遣中、派遣後を通じて、メディアや SNS 等を通じて発信した。

○ 具体的な広報の実績例は、

【YouTube】※ライブ配信を含む

- ・ロンドン対話イベント 再生回数 4,300 回（令和6年1月4日現在）
- ・パリ対話イベント 再生回数 8,700 回（令和6年1月4日現在）

【現地メディア】

- ・フランス大手新聞社「フィガロ」（学生版）（電子版）
- ・カナダ日本語情報メディア「バンクーバー新報」（電子版）など

○ 対話イベントや学校訪問では、各会場や学校で、それぞれ数十名の参加があった。

○ ベルリンとミラノのパネル展では、計4日間で、計1,200名以上（ベルリン260名、ミラノ1,000名）の方に来ていただいた。

6 成果

○ 参加者からの声として、

・平和に向かって各国首脳意識を向上させることに繋がったサミットの良い流れを、若者から広げ、より良い未来に向け行動していくことに貢献できたことを光栄に思う。

・他の日本人参加者と共に得られた学びを、何かしらの形として存続したいと思う。

といった感想があり、現地の若者と地球規模課題の解決に向けて有意義な議論ができ、また、参加した日本の若者同士でも、互いの活動に刺激を受けるなど、参加者の成長につながった。

○ 現地参加者からは、

・現在の世界情勢をふまえて核抑止論を支持する声もあるが、多くの若者は、核廃絶を願っている。

・日本の若者の平和へのコミットメントに感銘を受けた。

などのコメントをいただいた。

○ 現地の若者との対話イベントやパネル展等を通じて、多くの人の広島への関心を高め、核兵器問題をはじめとした地球規模課題の解決に向けた機運を向上することができた。

7 参考

次の URL で、本事業について掲載中。

<https://hiroshimaforpeace.com/g7summitlegacyproject/>

【詳細日程】

(イギリス・フランスコース)

	月日	日程	
1	10/29(日)	広島空港発→羽田空港	東京泊
2	10/30(月)	羽田空港→ロンドン着	ロンドン泊
3	10/31(火)	日本大使館、帝国戦争博物館等	ロンドン泊
4	11/1(水)	対話イベント (ロンドン大学学生等が参加) (オックスフォードハウス)	ロンドン泊
5	11/2(木)	ロンドン発→パリ着 日本大使館	パリ泊
6	11/3(金)	対話イベント (パリ・シテ大学学生等が参加) (パリ国際大学都市日本館大サロン)	パリ泊
7	11/4(土)	パリ発→	機内泊
8	11/5(日)	→羽田空港→広島空港着	

(アメリカ・カナダコース)

	月日	日程	
1	11/12(日)	広島空港発→羽田空港→モントレイ着	モントレイ泊
2	11/13(月)	対話イベント (ミドルベリー国際大学院モントレイ校学生が参加) (ミドルベリー国際大学院モントレイ校)	モントレイ泊
3	11/14(火)	スタンフォード大学訪問、シリコンバレー企業視察等	サンフランシスコ泊
4	11/15(水)	サンフランシスコ発→バンクーバー着、日本総領事館	バンクーバー泊
5	11/16(木)	対話イベント (現地ユースとの対話型ワークショップ) (ブリティッシュコロンビア大学)	バンクーバー泊
6	11/17(金)	バンクーバー博物館、日系文化センター・博物館	バンクーバー泊
7	11/18(土)	バンクーバー発→	機内泊
8	11/19(日)	→羽田空港→広島空港着	

(ドイツ・イタリアコース)

	月日	日程	
1	11/29(水)	広島空港発→羽田空港→	機内泊
2	11/30(木)	→ベルリン着 日本大使館、ヴァンゼー会議記念館	ベルリン泊
3	12/1(金)	高校訪問 (フリーナウ・ゲマインシャフトシュレ高校) パネル展 (フンボルト大学)	ベルリン泊
4	12/2(土)	テロのトポグラフィ、虐殺されたヨーロッパのユダヤ人のための記念碑、壁博物館、パネル展 (フンボルト大学)	ベルリン泊
5	12/3(日)	ショア記念館	ミラノ泊
6	12/4(月)	高校訪問 (ヴォルタ高校)、パル展 (ミラノ工科大学)	ミラノ泊
7	12/5(火)	高校訪問 (アルベルト・アインシュタイン高校)、パル展 (ミラノ工科大学)	ミラノ泊
8	12/6(水)	ミラノ発	機内泊
9	12/7(木)	→羽田空港→広島空港着	

【参加者名簿】

(イギリス・フランスコース：5名)

名前	フリガナ	所属	学年	
越智 歩	オチ アユム	同志社大学	4年	
神里 晏朱	カミザト アンジュ	立教大学	4年	
黒瀬 陽音	クロセ ハルネ	広島県立広島叡智学園高等学校	2年	※
中本 結子	ナカモト ユイコ	慶応義塾大学	3年	※
庭田 杏珠	ニワタ アンジュ	東京大学	4年	※

(アメリカ・カナダコース：5名)

名前	フリガナ	所属	学年	
奥田 弥陽乃	オクダ ヤヤノ	広島大学	1年	※
鬼木 優里	オニキ ユウリ	京都大学	2年	※
神田 実鈴	カンダ ミスズ	広島大学大学院	修士2年	※
四反田 直樹	シタンダ ナオキ	京都大学	4年	
山田 杏菜	ヤマダ アンナ	京都大学	2年	

(ドイツ・イタリアコース：5名)

名前	フリガナ	所属	学年	
出野 日葵	イデノ ヒマリ	広島市立舟入高等学校	3年	※
小田 珠々乃	オダ スズノ	広島市立舟入高等学校	3年	※
前田 遥夏	マエダ ハルカ	叡啓大学	1年	※
望月 帆奈	モチヅキ ハンナ	広島県立広島叡智学園高等学校	1年	※
山島 雫	ヤマシマ シズク	広島女学院高等学校	3年	※

(※) 参加者本人が広島県内の学校に在学した経験があること
又は広島県に在住した経験があること